

~ 13
3111
5止





善小説打出濱巻之五

第十七回

霜夜の水仙

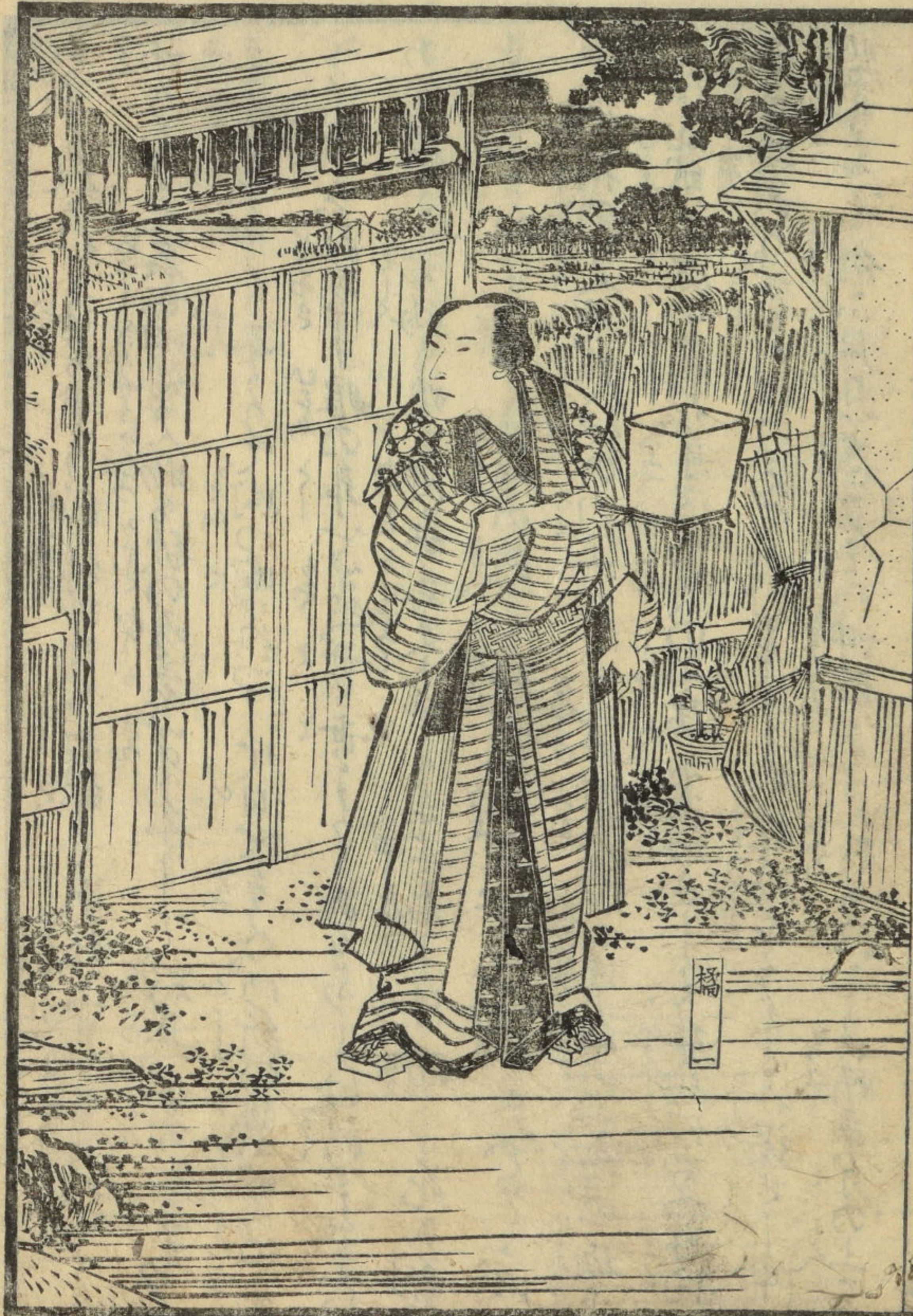
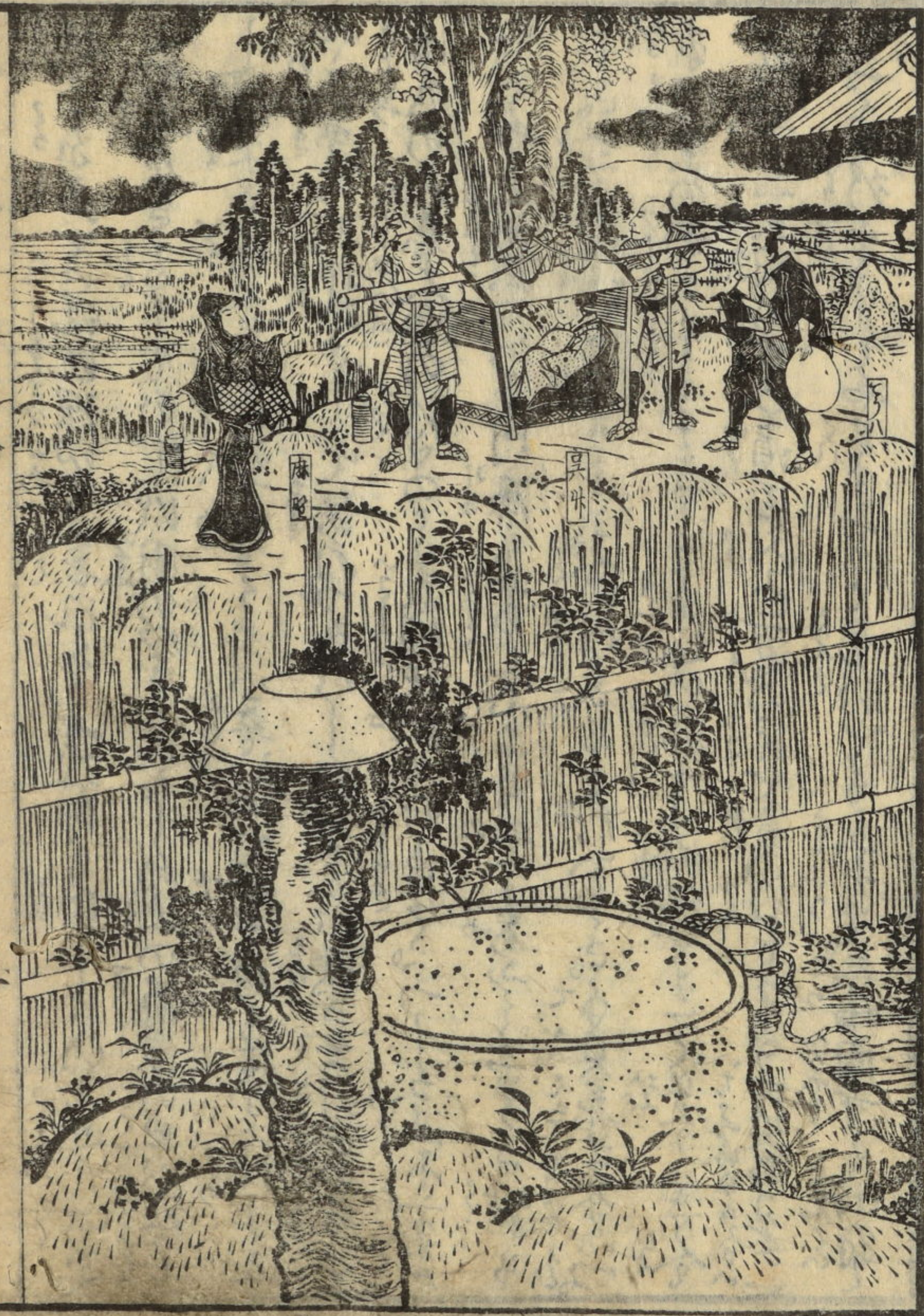
南里亭其樂著

司馬相如の卓文君と交り市店小酒を鬻ぐ傭奴と云ふ不食言と
 條多困と云ひしも終り武帝の上用ら高松小井と云ふこれ
 全く相如が文の秀あるといふも史記が高松の爲なりと云ふ
 た海津小東りなり名心本貞造と名宗自己の是しと云ふと
 一く武藏と云ふと云ふと業と一書の麻理も計術捕獲と云ふ
 一萬代村と云ふ史記等協業して輕附世と云ふ所の事なり
 なる小元東葉和の貞造なりと云ふと村の清と云ふと業と云ふ

丁巳寅 卷之五

お袖の〜と余の〜の〜といふや女房麻野も後〜貞造が
 例ふ事あり。実おとらふはれども、おのりつきの御事お知れらるる
 もあはれ帰系あり。忠孝全く、為事来親母安楽〜あつて
 一き〜とあふあり。親兄もあり。それと知〜る〜の獲世
 と、不忠やま〜その〜ふ活命の恩ある。内内悪項坊をを不殺され
 玉い〜る〜る。自づおあり。よ〜やその人の〜ある〜はとも異人今を
 る位〜して我罪業〜僕人と忠おどの存心と助事今あふ守せ〜お
 四い〜けがら女お賣〜れ花洛〜出のれども安西主と尋もせで
 るる光臨の参て據す。漂泊の君〜一〜を〜る〜の津お寄ると
 優品華の君ふ〜と〜知れ〜一〜君世めで〜と〜縁〜一〜やあ〜と〜せ〜

聖、是りの是で、い精意の〜、兩親の正家、我お〜と〜今日忌日〜
 人〜とあ我勿作も〜も悲〜き〜と云解る〜る〜び内身が後事の
 時〜、我お〜び〜お〜し〜ん〜と〜その〜悲〜〜ゆ〜あり〜と〜う〜
 云〜神りて〜親と〜覆い〜お〜も〜情〜び〜と〜運負造も〜お〜麻野
 分脊と〜下し〜余〜お〜教〜と〜玉〜る〜お〜た〜と〜帰系の時ある〜も我〜人〜
 内身も〜侍〜ひ〜その時〜お〜だ〜と〜手〜候も〜あり〜た〜身〜う〜下〜て〜お〜も〜せ〜
 難事あり。瘦款〜と〜止〜お〜使〜令〜今〜育〜の時〜有〜と〜身〜危〜も〜又〜
 亡母の命と〜お〜と〜と〜教〜く〜、却〜る〜不〜教〜あり〜と〜保〜め〜お〜麻野も〜白〜
 拭い飛渡消滅懺悔吐〜し〜お〜思〜代〜款〜と〜我〜ま〜の〜替〜守〜お〜い〜
 と庭下〜ら〜茶の〜下〜拈〜茶〜〜と〜て〜ま〜お〜向〜い〜を〜育〜ひ〜つ〜より〜



昔小述申る麻野あり旅人の病氣はさぞ
 細くあがりしと度々あ
 禰引明く下人とさるてあはれ初燈の火を捨てて足がかり
 申すも一物もいへば膝もせも有るなりし
 三年のあ
 鑑死しぬ娘もびや扱ひ年頃悪しと云ひし母上もてま
 此云は正後娘麻野とてあはれ母方の娘といふより外御とて身も
 恥はれ付てまゝ一歎もあつては縁は命合はれど鑑死しぬは是女
 が再び命をささがるる一原たる所後室の病も付はぬ理の深はと
 笑へし生解と云へしと刀の柄もささけし麻野は驚きさすま
 るる隙に命をささがるる一原たる所後室の病も付はぬ理の深はと
 取為ふべ後所朝比奈は家臣山井三郎太夫が娘麻野もは遠ふし今

皆備しもまあれが家も侍の引合せ子細もあつたしそまは後か合
 点し玉只不慮の母上あり隙に命をささがるる一原たる所後室の病も付はぬ理の深はと
 足れは調度もあつたし父上にあはれとてまゝと云へし父もあつた
 奈何も人侍の玉のいと問ひて母も隙に命をささがるる一原たる所後室の病も付はぬ理の深はと
 云はれや何と悟りしとて彼も不押当て悲し涙もあつたし
 小遠はびしてそまは夜寝もあつたしとてまゝと云へし父もあつた
 藤生由一れをそまは備ふ及び境裏とてせしとて子侍の難状もあつた
 死せしそまは方ゆ推ふもあつたしとてまゝと云へし父もあつた
 死骸もあつて石尾かたつたのあはれ人侍の神もあつたし
 故ふし最終とてまゝと云へし父の故とてまゝと云へし父もあつた

く後より歌打の比真りの歌子いざや二ふいざや悲業乃最期あつとあつ洞あつふあつせあつる
除いざや節いざやもいざや卷いざやといざや振いざやりいざや某いざや其いざやのいざや場いざや亦いざや合いざやびいざや後いざやといざやけいざや付いざや走いざやりいざや某いざやかいざやんいざやれいざやと
女いざや慙いざややいざやいいざやまいざやのいざや女いざや念いざやのいざや亡いざや骸いざや等いざや已いざやあいざやれいざやばいざや辰いざや辰いざや故いざや昔いざや某いざやがいざや屋いざや後いざや押いざや迫いざやるいざや人いざや其
大いざや字いざや等いざやりいざやのいざや松いざやをいざや進いざやめいざや場いざやといざやりいざやといざややいざや逐いざや電いざやといざやていざや松いざや方いざや却いざやはいざや歸いざやくいざやと
思いざやはいざやもいざや某いざや故いざやといざや進いざやりいざやばいざや後いざや宮いざやのいざや人いざや惟いざやあいざやるいざや女いざや抱いざやせいざやんいざや故いざやといざや進いざやふいざや
ほいざやろいざやまいざやどいざや先いざやのいざや家いざやのいざや柳いざやといざや上いざやのいざや後いざやといざや松いざやをいざや飛いざやあいざやれいざやども
いざや直いざや那いざや歌いざや子いざや息いざや絶いざやせいざやれいざや飛いざやのいざや美いざや言いざやいいざや定いざやといざや松いざや高いざやといざや松いざや子いざやふいざやりいざやまいざやと
松いざやをいざやあいざやるいざや初いざやといざや知いざや初いざや上いざやといざや女いざや上いざや松いざや子いざやのいざやもいざやはいざや松いざやといざや字いざやといざや字いざやといざや字いざやと
女いざや念いざやはいざや情いざやといざや松いざやをいざや進いざや何いざやふいざや不いざや過いざやといざや思いざやふいざやもいざや尋いざやねいざや出いざやしていざやいいざやまいざやのいざや松いざやの
妾いざや松いざやといざや人いざやといざや後いざや宮いざやといざや松いざや伏いざやしていざや出いざやるいざやにいざや出いざやれいざやといざや三いざや年いざや松いざや故いざやりいざやもいざや時

合いざや代いざや家いざや中いざや玉いざやのいざや家いざや迄いざや来いざやむいざや木いざやのいざや下いざや雨いざや漏いざやるいざや定いざやといざや松いざやをいざや痛いざや氣いざやあいざやり
何いざや卒いざやしていざや中いざや後いざやあいざやるいざや女いざや玉いざやといざや神いざや小いざや松いざやといざや甲いざや斐いざやあいざやるいざやはいざや程いざやの
いざや女いざや校いざや等いざや又いざや一いざやふいざやといざや人いざやがいざや耳いざやといざやらいざやりいざや東いざや國いざやのいざや浪いざや人いざやといざやけいざやしいざやといざや松いざやをいざや故
松いざやをいざや進いざやめいざや女いざやんいざやといざや松いざやのいざやといざやあいざやくいざやもいざや女いざや子いざやのいざや再いざや會いざやあいざやるいざやは
といざや思いざやひいざやらいざやれいざや書いざやいいざやもいざや松いざやといざやらいざやもいざや松いざやといざや人いざやといざやていざや其いざやのいざや美いざや言いざやをいざや何いざやふ
のいざや口いざやをいざや何いざや人いざやがいざや疾いざや母いざやのいざやもいざや引いざやきいざやせいざや何いざや角いざやのいざや松いざやもいざや進いざやめいざやるいざやは
いざや宮いざや宿いざや不いざやといざやといざや松いざやをいざや進いざやめいざやるいざや歌いざやのいざや中いざやのいざや松いざやといざや松いざやといざや女いざや子いざやのいざや再いざや會いざやあいざやるいざやは
いざや女いざや子いざやのいざや名いざやをいざや松いざやといざや松いざやといざや思いざやひいざやらいざやれいざやはいざや松いざやといざや松いざやといざや思いざやひいざやらいざやれいざやは
いざや女いざや子いざやのいざや忠いざや孝いざや貞いざや節いざやのいざや人いざやといざや若いざやきいざやもいざや松いざやといざや松いざやといざや思いざやひいざやらいざやれいざやは
いざや女いざや子いざやのいざや心いざやをいざや松いざやといざや松いざやといざや思いざやひいざやらいざやれいざやはいざや松いざやといざや松いざやといざや思いざやひいざやらいざやれいざやは

おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
まゝの思ひはつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより

第十九回

層氷の巻

貞造は麻野がたぬらうの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより

不慮の事ありしはつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより
おしなは心切去るがしつづの通り娘がまも知らざるはより



貞造

忠六

蝶



吳竹

五月

麻野

あまがとて強も世経しまよこしれ謝はるる不運う〜
 仍来とんそのぬやうふれま〜
 と拭い勿漏麻時が不取存とやう〜
 正をまどの父子の撰れ姑の辛勞を罪に我身不あそあ〜
 此上故番系松を天不踏地と實とも尋出さてをな〜
 賢父子の故我為し不忠の仇あり疾も新とする〜
 月日ふと〜
 貞造が教多しと打もつて孫〜
 井の聲若は是女入通れの殿内持玉い〜
 ともから雷く受殿内のかつて故と討玉を〜

一瑞系の上直井の家再真一父兄の由美一〜
 此直井人の教も〜
 申しては松を進〜
 下末と唯主従四人相傳指結〜
 變り果〜
 卒た受〜
 おして故の有家初〜
 湯と之難波のまら〜
 も〜
 一先尚不と引除系部〜

系於小出あざと今出川辺安西佐三郎といふ人あり一麻野が恩ある悪
 頂坊の子ありとす一そりも尋人と系於(あつち)殺足の内後(あつち)は
 羽音(あつち)内(あつち)才(あつち)中(あつち)起(あつち)意(あつち)の(あつち)意(あつち)故(あつち)とて(あつち)そ(あつち)と(あつち)不(あつち)例(あつち)の(あつち)極(あつち)とて(あつち)各(あつち)の(あつち)重(あつち)重(あつち)
 魚(あつち)も(あつち)終(あつち)る(あつち)長(あつち)く(あつち)の(あつち)月(あつち)日(あつち)何(あつち)不(あつち)目(あつち)由(あつち)ふ(あつち)く(あつち)若(あつち)し(あつち)事(あつち)も(あつち)難(あつち)さ(あつち)仕(あつち)合(あつち)る(あつち)
 何(あつち)も(あつち)せ(あつち)る(あつち)と(あつち)好(あつち)ら(あつち)し(あつち)ふ(あつち)玉(あつち)元(あつち)の(あつち)軟(あつち)ども(あつち)病(あつち)気(あつち)と(あつち)若(あつち)若(あつち)来(あつち)ら(あつち)し(あつち)由(あつち)終(あつち)ら(あつち)
 多(あつち)く(あつち)ひ(あつち)ど(あつち)も(あつち)故(あつち)國(あつち)中(あつち)一(あつち)度(あつち)ぞ(あつち)ん(あつち)ど(あつち)は(あつち)曉(あつち)む(あつち)の(あつち)あ(あつち)ま(あつち)り(あつち)し(あつち)と(あつち)す(あつち)て(あつち)穿(あつち)つ(あつち)
 中(あつち)大(あつち)小(あつち)説(あつち)ら(あつち)る(あつち)存(あつち)も(あつち)あ(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)作(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)心(あつち)軟(あつち)む(あつち)の(あつち)病(あつち)気(あつち)と(あつち)れ(あつち)ば(あつち)止(あつち)ま(あつち)す(あつち)
 中(あつち)ら(あつち)を(あつち)と(あつち)も(あつち)余(あつち)の(あつち)火(あつち)意(あつち)の(あつち)ゆ(あつち)と(あつち)て(あつち)應(あつち)ず(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)言(あつち)ふ(あつち)か(あつち)し(あつち)師(あつち)の(あつち)言(あつち)は(あつち)
 して(あつち)魚(あつち)味(あつち)の(あつち)村(あつち)ま(あつち)が(あつち)ザ(あつち)ら(あつち)の(あつち)道(あつち)も(あつち)毎(あつち)日(あつち)い(あつち)ふ(あつち)今(あつち)多(あつち)く(あつち)は(あつち)誰(あつち)と(あつち)ぞ(あつち)ん(あつち)
 と(あつち)言(あつち)ふ(あつち)ら(あつち)れ(あつち)ぬ(あつち)お(あつち)終(あつち)る(あつち)父(あつち)母(あつち)別(あつち)れ(あつち)る(あつち)と(あつち)て(あつち)お(あつち)終(あつち)る(あつち)止(あつち)ま(あつち)す(あつち)時(あつち)は(あつち)若(あつち)さ(あつち)

傷(あつち)る(あつち)ふ(あつち)か(あつち)ら(あつち)不(あつち)始(あつち)我(あつち)の(あつち)内(あつち)三(あつち)人(あつち)昨(あつち)の(あつち)言(あつち)は(あつち)い(あつち)て(あつち)後(あつち)は(あつち)不(あつち)送(あつち)り(あつち)せ(あつち)ん(あつち)
 ま(あつち)し(あつち)終(あつち)る(あつち)家(あつち)内(あつち)の(あつち)人(あつち)村(あつち)方(あつち)も(あつち)多(あつち)し(あつち)ゆ(あつち)ぐ(あつち)と(あつち)皆(あつち)去(あつち)実(あつち)お(あつち)接(あつち)接(あつち)せ(あつち)れ(あつち)
 負(あつち)遣(あつち)り(あつち)迷(あつち)惑(あつち)し(あつち)各(あつち)の(あつち)後(あつち)子(あつち)も(あつち)あ(あつち)ら(あつち)難(あつち)く(あつち)と(あつち)言(あつち)ふ(あつち)と(あつち)て(あつち)謝(あつち)を(あつち)な(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)
 亦(あつち)い(あつち)ど(あつち)も(あつち)書(あつち)り(あつち)し(あつち)も(あつち)い(あつち)り(あつち)ゆ(あつち)ら(あつち)な(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)兼(あつち)白(あつち)を(あつち)指(あつち)け(あつち)ぬ(あつち)火(あつち)意(あつち)の(あつち)指(あつち)け(あつち)
 只(あつち)い(あつち)ど(あつち)も(あつち)疾(あつち)より(あつち)若(あつち)来(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)父(あつち)の(あつち)病(あつち)気(あつち)も(あつち)是(あつち)も(あつち)若(あつち)く(あつち)の(あつち)心(あつち)切(あつち)る(あつち)子(あつち)に(あつち)
 お(あつち)よ(あつち)し(あつち)何(あつち)卒(あつち)尚(あつち)お(あつち)居(あつち)存(あつち)を(あつち)定(あつち)め(あつち)て(あつち)種(あつち)く(あつち)あ(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)と(あつち)か(あつち)つ(あつち)け(あつち)書(あつち)を(あつち)な(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)
 一(あつち)の(あつち)病(あつち)跡(あつち)も(あつち)多(あつち)し(あつち)大(あつち)切(あつち)え(あつち)い(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)れ(あつち)ぬ(あつち)の(あつち)飛(あつち)札(あつち)を(あつち)来(あつち)て(あつち)付(あつち)て(あつち)麻(あつち)野(あつち)
 にも(あつち)留(あつち)る(あつち)の(あつち)女(あつち)抱(あつち)き(あつち)て(あつち)交(あつち)り(あつち)ぬ(あつち)間(あつち)は(あつち)若(あつち)さ(あつち)し(あつち)母(あつち)も(あつち)い(あつち)ふ(あつち)お(あつち)終(あつち)る(あつち)ひ(あつち)ゆ(あつち)え(あつち)
 せ(あつち)終(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)お(あつち)終(あつち)る(あつち)後(あつち)お(あつち)及(あつち)び(あつち)ぬ(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)一(あつち)先(あつち)は(あつち)跡(あつち)下(あつち)り(あつち)ぬ(あつち)と(あつち)思(あつち)ひ(あつち)ぬ(あつち)今(あつち)の(あつち)
 ね(あつち)中(あつち)へ(あつち)止(あつち)ま(あつち)す(あつち)な(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)言(あつち)ふ(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)村(あつち)ま(あつち)は(あつち)も(あつち)力(あつち)と(あつち)為(あつち)り(あつち)ぬ(あつち)け(あつち)ら(あつち)ぬ(あつち)

其此不及次係秋の病治しふ何年再び安んずる事なむ
 りるなりとてむく小病別も病り病の袖袂被褥する事織布被褥
 り草鞋まで皆を悉くお送りの日永き妻の病治
 諸とも小病後四人癒出立高村の氏神ある懐寧とて心小病治す
 小弓矢神一のがきむらと氏宮長久行りや大海の津一と流るる
 谷川吹流の宅まで村人大勢お送りせしめて今小病治す事難
 津へ出て伏見への登り船と事先なる

茅廿四

千葉乃松

行く四人の者々伏見やうの夜船もく東流志一と流るる
 了らうとて東流もく鳥明と若き系命の人頭と上り夜も明らう

と是より何方ありと長向より一のそき右子小見る八幡宮なる
 小見ぬも明てと勝もあ一我も流るる上り一式山崎より上
 一人のどいふ中より四人のものを何年か下より上りてとて
 の流より朝編ちと徳め諸雄徳八幡宮小清で秋付の宿願を行
 せしんと八幡宮せうし小清の社より社司之奴内帯と奉け
 巫祝分頼と有りて心平と清一社秋魁の峰小堀成一諸を稟安
 一石清水放生池小堀真剛小堀神威日々小赫々天鼓吹打ありと
 伝心孫塔と大秋必就る事一むむと祈念一様小厄神を祈
 度の間と出来り思安小怪一と一度の小橋と東へ渡るとある
 屋敷さる家の新小蓋の菅笠けり一りり菅笠のさる一と人れば

後而後人正本貞造と云ふ事一多花の級付より貞造用ありあれど
 尺のけ世調度一といふも亦南字といふ名も級付なきを同姓するもの
 余り不測ありと四人等一く立止り貞更職居り一が貞造に於て
 招自然親存他名と記して未だ一りやある人より一まて
 も武士の分としていふも南字記と云ふや早免後段の人とすも同
 の不縁あり我も名きて身以重く人もまゝとて名とを名し一不測
 と彼家へ表ふて一も南字の何ものか方の不測ふり一後
 記で一通りの名も一我も南字記と云ふは南字下さるまじや
 と云われ一南字と云ふ一と人無く一南字のまに一人も一別
 一と云ふは一南字と云ふは一南字と云ふは一南字と云ふは一南字と云ふは

いまて見てある人あり一初とて一終られし一定白の如き一あり一あり一あり
 べり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 後一と通うあれと案内不貞造扱、執人として一あり一あり一あり一あり一あり
 て面談と云ふ一順更と云ふて一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 不詳い契不通り一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 清光礼の扱扱と述と一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 の人より一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 の里を去りも一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 名南字まて一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり
 下さるもの一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり一あり





昔者一と形勢あり直視高張小松まおびの級有らるるおび人
 のりたれ河をふくむおびり早快く本家の領内とあれびりや
 比良田とてらるるくも之小退付い級級のてうらへ河牙極小いや
 あり一ふ人足是は高剛主の由は良田お音お松とて細柳のま
 あり世お松とて是は孫お松とては後より出立あり又守備
 孫六波羅お初お海時お家中皆くお海玉の屋中あれは不れお
 ちうお松とあれ我等小休お初とての人足ありと若くお松とて急
 ちりまとせより五人の者お小踊してはびるも引退しては良田
 亭お松と孫お松と又お松とては除節押さぬお松とては夜も
 明ればお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて

らとてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 是は理也とては税官お史は良田とてお松とてお松とてお松とて
 お松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 人地の理お松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 お松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 送行お松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 その一とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 してお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 内と明いてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて
 お松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とてお松とて

一 欲と付人と付清く身事不務負せしと叫りたれ不覺に
 ぐんと欲さ敷れし己が罪己と責る自業自得とて下下我罪
 ぶるまばこそ天乃の恵とて此のま出せ世を欲と叫るし
 うまら反時足成せしとて此の戸で出んとてと眼麻世上の仇
 うると切付ると心はうると清止る右の母丹井妻子の欲と利
 下と切付ると流石のは良田なりとて是原と引被清つ流しつ切
 二人の女も初しと細法子練の松を進が死抱抱ひをカ先あ
 てんがバ殊八郎後分の仇富士が欲の初れと三人のるお付
 松を進が清散成きて切拂へ飛居ふどど例とて吳中麻世
 切付く歎ふ止と別人とせしと負造をけあ人初れの善娘付果し

止と利と欲付の流控ふし官史小洲へ上と止あて利も運る
 ましや初しと多と初しと負造は後小批下騎るの侍るあ
 今初素初の法士狼藉ありと六波羅へまの原進何者あ
 石捕事と執控三好度の下知と清絶付事某三好の家は安
 西伝三郎と云者なり欲付の流んてんが歩と利も昔し
 忍頂がめも欲ありと室いしと尋る子細あり忍頂といふ
 忍頂といふと忍頂門系とて果しとてその欲あり我あも
 父の仇事しとて刃眼人ともう下候ふ止と利も後五人後び
 一 忍伝本破より山内進とて石林高橋つとて欠
 五人の者と石連と権一初人とあふ安西も換控し執控の目は欲付

ぞ居一上六引の子細ありけり本屋の成内よれば彼の指澤猪
ひ以牙然一糸小辰目内若骨と名をた引れ杉籠なく五の
ま後まをすつ小辰目れはく本破玉着をそより先お破より
今川家右の二件は者として通達あり一日ありけり後筋今川家
より五敷の役老として家老朝加典膳正木存徳と見保五人の者
て近五敷破も討ち外膳まをむい一とどまらぬ人あり者ともる
色も些小及びはきり一様公郎は成内の善とて初目も引れば
高家の家来お然一とを守忍堂として松重杉が盗取一糸糸を
返一をそれ良時様公郎として出生の村と成地を下一むり外四
人の者どもは後筋一むりする小大守今川辰時と外小妻徳久し自選

改く麻野と後言一一本の家替れ續一吳井も忠六と
して直井の家再無と一との意下りる後筋の自と并さお力
晴安家富栄一糸糸も目出成事と迎一なる

附して曰初巻虚空花會、三月十三日と成次といとも後を
桐の國く多く廿三日と今日とと系接の東武して廿三日と
まらぬ故小三郎の呪忌念入ると思はん文のてとと被
君子會日の趣話ととあしとあるもあらし

日暮小説打出之濱巻之五終



江陵山人其樂作
尾陽東南并雲画

木曾駒若説話

初編六冊來卯春発見

江陵山人高悦著
先止齋載斗画

萬歳女古状挿

大本全冊 近刻

両面折本大全 近刻

懷寶萬歳曆

木曾駒若者我基阮とあり
本國小義兵の旗を揚
婦小方が快力多
と詠来せし繪入りあり

古今賢女貞婦主
探の實書之撰
文章小海を
預書小女中
集めり

當年の教板
考事未細
懐中年代記の

著述

南里亭其樂



畫工

浅山

蘆田



筆工

浪速

山田

平蔵



文化十五戊寅年正月新刻

書肆

江戸 鶴屋金助
尾陽 義濃屋伊六
京都 丸屋善七
大坂 秋田屋谷衛門

